



巡礼その二十八 韓国

2008年4月29日

4時半起床、昨日タクシーの予約が取れないので家の前でタクシーを拾う。すぐにつかまり1時間も早く渋谷の南口に着いてしまう。マクドナルドでフィレオフィッシュを食べる。成田エクスプレスで空港へ行く。成田はとてもすいていた。インチョン行きの便はガラガラで2人用の座席を取ったが回りに人がいない。あまり美味しくないサンドイッチを食べて麻雀ゲームをしていたらもう着陸。とても綺麗な空港で荷物を取ってロビーに出たらガイドのチェさんが待っていた。チェさんは35歳のキャピキャピした女性で驚いた。チェさんもどんな人をガイドするのか会社中で話題になっていたらしい(すごく細かく寺院をチェックしたファックスを送ってあった)。まず国立博物館へ行く。道路はとても良く並木も日本と同じようであるが雰囲気少し違う。日本の地方都市のようである。町は綺麗でゴミはほとんど落ちていない。国立博物館はセンスの良い近代建築で硝子をうまく取り入れており、中は明るい。この日はものすごい数の小学生達が次々に入って来る。一階の敬天寺の塔は素晴らしい。仏教彫刻室の展示物は国宝級で見応えがある。ここの素晴らしいところは自由に写真が撮れることである。その点日本より数段進んでいる。ハイライトは弥勒半跏思惟像である。展示物を見ていると文化は中国直接ではなく、朝鮮半島経由であることがよく解る。私の興味は四天王、八部衆である。外の屋外展示場も見応えがある。石塔や石仏が整備された庭に並んでいる。もう1つの目玉タップコル公園にある円覚寺址の石塔を見に行く。なんとこの塔は硝子で全面覆われてしまっている。このガラスが汚くよく見えない。とても細かい彫刻がいっぱいあるのに残念である。こんなことなら博物館に入れてしまった方が良くはないか。この公園の前が仁寺洞である。私の好きな民芸品や骨董品が並んでいる。食べ物屋も多い。やはり骨董品にはいいものが沢山あるが、ほとんど50000円以上であきらめる。お土産のコースターだけ買う。チェさんが迷子の兄弟を保護する。そろそろ5時半になったので、今回の旅行の資料として役に立った

芸術新潮に出ていた田舎家（シゴルチブ）と言う焼き肉屋さんに行く。チェさんも知らない地元の人だけの店である。古い民家（お金持ちの）を改造しており、看板もとても小さい。ここで干タラ（激辛絶品）と海鮮チジミ（脂っこくなく絶品）などを食べる。いよいよメインの焼き肉だがこの焼き肉は叩いた肉に味付けして、1枚ずつ網に挟んで丁重に焼き上げる。これが本来の焼き肉であるという。その肉に唐辛子や生のニンニクスライスを挟んでタレにつけて食べる。絶品でご飯が進む。調理場を見せてもらったらとても大きな鍋でスルクッ（ウシの血に大根、ネギなどが入ったスープ）を煮込んでいた。大満足してノブレスホテルにチェックイン。下町にありとても渋いホテルでダブルベッドとシングルベッドがおいてあり、お風呂はジェットバスである。前のスーパーで水、コーヒー、アイスクリームを買う。胸焼けがひどい。生ニンニクの食べ過ぎである。妻はダブルベッドで、私はシングルベッドで寝る。

4月30日

5時起床、7時に朝食なので、散歩しようと下に降りたら、チェさんが居たのでホテルの前の食堂でスルクッを食べる。中にご飯を入れてかき混ぜてキムチやカクテキと一緒に食べる。8時出発、神勒寺を目指す。高速道路を使い1時間で京畿道驪州郡の神勒寺に着くが、入口には瀬戸物見本市をやっているので駐車場が無くなっている。ここからは歩いて陶器販売店が並ぶ不思議な広場を抜けて参道に出る。この寺はハン川沿いにあり昔は船で来たそうだ。境内には優美な極楽殿、祖師堂などが緩やかな山の斜面にそって立ち並んでいる。上に登ると普濟尊者石鐘があり、その前に美しい飛天が彫刻してある石燈がある。川沿いに七層塔が建っている。この時期の韓国はベストシーズンで色々な花が咲きそろそろ。境内でもツツジ、八重桜、菜の花、ライラックなどがいっせいに咲き誇っている。ここから2時間ほどで慶尚北道栄豊郡の浮石寺へ行く。韓国は田舎に行くほど日本に似て来る。何処へ行っても違和感があまりない。浮石寺は山に沿って伽藍がある大きな寺院で麓に大きな駐車場がありお店が沢山並んでいる有名な寺院である。なんとこの日は駐車場に大型バス50台以上が並んでいる。小学生の遠足であった。正月の明治神宮状態で、小学生に混じり参道の急な坂道を上って行く。なにしろ子供だらけで写真どころではない。無量寿殿は素晴らしい建物であるがここも子供だらけである。ちょうどここで仏教系の中学生50人が先生の木魚に合わせて経をとなえていた。前にある石燈も傑作と言われている。三層石塔もある。祖師堂を見学し子供達に混じって下山す

ると、途中で男子 10 人が道のはしで手を上げて並んでいる。この生徒はお寺を見学しなかったので、罰を受けているのだそうだ。お昼は駐車場の周りにある食堂で安東名物ゴンジンクスという豆の粉を混ぜたウドンとドングリの粉で作った寒天のようなものを食べた。4人で2万ウォン。最後に店にあるコーヒーマシーンでコーヒーを飲む。このサービスは韓国内ではやっており、コーヒーは何処でも無料である。これから栄州磨崖三尊石仏を見に行く。磨崖三尊石仏は2つあり、1つは町中を流れる川のそばにあり、岩が露出している道路際にある。眼病に効くとのことで、人々は仏の目を削り取ってそれを煎じて飲むため、仏の目がえぐれている。もう1つは郊外の畑の中にあり覆屋が付いて保存されている。とても摩耗が激しい。浮石寺からこの辺りはリンゴの産地なので至る所に白い花が咲いている。安東の北西 16km の鳳停寺はエリザベス女王が訪れたところとして有名であるが境内にある極楽殿は韓国最古の木造建築である。大雄殿も単層入母屋造でとても美しい。極楽殿では軍の若い人達 50 名がおばさんの説明を聞いていた。その後、河回村へ行く。落東江が回り込んだ地形でその中心に両班の人達が住み着いている。時を経た家屋がそのまま残っておりタイムスリップしたようである。とってものどかな田舎でコンクリートの住宅は一軒もなくすべて平屋なのが落ち着く。築地塀が奈良を思わせる。夕食は安東名物チムタクを食べに行く。そこはチムタク横町になっており何処の店に入っていかわからずうろろする。運転手さんに決めてもらう。チムタクとは鳥のすき焼きみたいなもので鶏肉のあらゆる部分とジャガイモ、ニンジン、タマネギ、春雨が入っていて絶品である。1つで4人前であるがとても食べきれない。水キムチもおいしかった。ご飯が付いて 21000 ウォンであった。ホテルカリフォルニアは町中にあるはずであったがわからずぐるぐる回り、電話をかけてやっと解った。看板がとても小さかった。部屋はダブルのツインでとても広くここでもジェットバスであった。

5月1日

5時半起床、7時半にホテルの周りを散歩する。ホテルの前の食堂でサバの塩焼き定食（絶品）を食べる。チェさんは納豆汁をたのむ。ここでも食後はコーヒーです。運転手さんがとても美味しそうに飲む。先ず駅の横にある五層塔へ行く。仁王像が彫ってある。チェさんがサバの塩焼きをお土産に買いたいというのでお土産物屋へ行く。安東は塩鯖の名産地である。昨日仮面博物館へ行けなかったのでここでお面を買う。もう1つの塔が川のそばにある。新世

同層塔は立派で八部衆と四天王が彫刻されている。すぐ隣に両班の臨清閣君子亭があり韓国で最も古い民家（1519年）である。泥川洞の石仏は道路のすぐ脇にあり熱心なおばさんが五体投地をしている。12mの巨大な磨崖仏で阿弥陀如来と言われている。11世紀の作で、とてご利益があるそう。ここから塔里へ行く途中に私のリストに乗っていない石塔があるとチェさんが教えてくれた。近くまで行くがわからない。小さな村で5、6人に聞くが誰も知らないのであきらめかけたら看板が出ていた。山の中に入り道が行き止まりになる。そこから5分ほどいくと草が刈り込まれた平坦な場所に建物がある。義城觀徳洞 3層石塔で彫刻がとても良く残っている素晴らしい石塔である。四天王と八部衆が彫刻されている。塔里5層石塔も迷ったが小学校の隣にあるのを見つけた。軍威三尊石仏は山の中の溪谷沿いにある。大きな岩に阿弥陀三尊が彫られている。石窟庵より50年ほど早く作られた。近くまでいけないので離れて写真をとる。お昼はこの周りに10軒ほどあるオープンテラスの食堂で食べる。ここの名物の蒸し鶏（絶品）一羽3万ウォンをたのむ。その他すいとん、たらの芽のチヂミ、鳥のだしでとったお粥を食べる。とても涼しい。ここから山を越えて桐華寺へ行く。このあたりは韓国の絶景の1つで、1時間ほどで八公山へ着く。もみじの並木になっているので紅葉の時期はとても綺麗になると思う。八公山は大邱から30分ほどの山なので道の両側にはびっしり車がとめてある。今韓国はトレッキングブームで平日にもかかわらず沢山のハイカー達がストック片手に歩いている。すごいのは全員本格的な恰好をしていることである。桐華寺が一番奥にありハイカーは一人もいない。駐車場はこの寺院の一番高いところにあり、ここから下って行く。毘盧殿に安置されている毘盧遮那仏は素晴らしい。川沿いの道を降りて行くと第一楼門の前に素晴らしい磨崖仏が彫られている。まだ時間があったのでチェさんが近くにある磨崖仏に案内してくれる。しかしまた迷い何人もの人に聴きながらやっと新式洞磨崖坐像にたどり着く。大邱の町へ行きプリンスホテルにチェックインする。とても立派なホテルでボーイさんがカートで荷物を運んでくれる。ここもダブルとシングルのツインである。風呂に入って6時に夕食へ。大邱名物チンカルビを食べる。チェさんはここの生まれでよく知っている店に行く。カルビチンは骨付きカルビを甘辛く煮てハサミで切って野菜を巻いて食べる。絶品である。最後にタレをご飯にかけて食べる。25000ウォンであった。コンビニで買い物をしてチェさんとドライバーさんにお別れをする。明日からは違うガイドさんとドライバーさんです。チェさんご

苦労さん。

5月2日

5時30分起床、6時50分新しいガイドのイ氏と合い、食堂へ行く。コムタンにご飯を入れて食べる。ゼラチン質が沢山入っていてとても美味しい。ホテルを出発して浄恵寺13層石塔へ行く。2時間ほどかかる。イ氏の本に興徳王陵が近くにあり十二支の彫刻があるので寄ってもらう。とても良い所で子供達が遠足にきていた。十二支もよく残っている。掛陵や聖徳王陵のように石像や狛犬、亀趺が残っている。次の南莎里寺址3層石塔が解らず1時間ほど探しまわるが見つからず、専門ガイドの林さんに来てもらい見つける。15分ほど山道を歩く。全く何も無いところであるがとても良く下草が刈られ、説明書きも韓国語、英語、日本語で書かれている。この塔の片割れが近くにあるのでそこも見学する。林さんは慶州の公式ガイドで韓国語しか喋れないが、あらゆる場所を知っている。後でわかったことだが妻と同級生であったが、私より年上かと思った。次に羅原里寺址5層石塔へ行き、山を少し登って斗笠里磨崖仏へ行く。碧桃山石仏はさらに一時間ほど山を登らなければならないのでパスする。お昼になったので町の中の海鮮食堂で海鮮ビビンバ定食をたのむ。定食に付いて来る秋刀魚の塩焼きが絶品である。コーヒーを飲んで出発。西岳里3層石塔へ行き太宗武烈王陵へ行く。有名な名所は韓国人観光客が多い。慶州は7時頃まで明るく、そして暑い。5時半に国立博物館に入り、時間がないので野外展示物だけを写す。夕暮れの皇竜寺址へ行く。奈良の平城京址ととても良く似ている。最高の時間帯で風が涼しくとても気持ちが良い。このまま夜までここでのんびりしていたい気持ちを残して夕食へ行く。天文台の北西に集まったサムパプ(野菜でご飯やおかずを巻いて食べる)の森浦サムパプへ行く。入口は骨董屋である。10種類の葉っぱと15種類ぐらいのおかずで、めいめい巻いて食べる。あまり美味しいものではない。妻は調子が良くないらしくあまり食欲がない。ホテルは仏国寺のそばの慶州コーロンである。とても静かなところで温泉が付いているのがうれしい。一人5400ウォンで浴槽は水、低温、高温の温泉がある。サウナもありとてもリラックス出来る。ただ韓国人はタオルを使用しないのでタオルを使っているとじろじろ見られる。残念なことに石鹸しか置いていないので部屋に帰ってシャンプーする。とても疲れていたため10時半に寝る。

5月3日

5時半起床、6時50分出発。今日は旅行のハイライト南山であるが妻は調子

が悪いのでキャンセルする。朝食はスナックを食べに行く。内蔵がいろいろ入っていてとても美味しい。スタミナをつけていよいよ南山巡りのスタート。東京で南山のことをいろいろ調べてみると、とてもハードで体力が持つとか、石仏が点在しているため、一日で見られるかとか心配であった。林さんとは拝里で待ち合わせしている。まずは拝里の三尊石仏へ行く。駐車場から5分位で立派な覆屋で覆われている。まだ早い時間であったがおばさんとサラリーマンのおじさんが熱心に拝んでいた。ここから山道を登る。途中お墓の小山がぼこぼこある。松の木に沢山のリスがいる。結構ハードな登りで頭なき石仏坐像が見えてくる。写真で見た通りで頭がないのが悔やまれる。少し登ると磨崖観音立像がある。さらに登ると三稜溪谷線刻磨崖六仏、その上に三稜溪谷線刻磨崖釈迦如来坐像がある。だいぶ登ってきたがさらに急になり磨崖大仏立像が見えてくる頃にはへろへろである。山頂まではもう少しである。最後の急坂を登ると絶景である。今登ってきた磨崖大仏立像越しに慶州の町が見える。尾根伝いに歩くと今度は下りになる。この下りが大変でほとんど直角に近い所をロープを使って下りる。この様な所が3カ所もある。今度は登りになり茸長寺址3層石塔が見えてくる。断崖の岩を削って造られているので山と一体である。素晴らしいロケーションである。往年の茸長寺を見てみたかった。さらに降りると茸長寺址石仏坐像と茸長寺址磨崖石仏坐像がある。どんどん下ると橋がありとても綺麗な川が流れている。ここで昼食である。ここで林さんが買ってきてくれたキムパブ（太巻き）とキムチを食べる。美味しいが一人前がものすごい量である。林さんは家からコーヒーとトマトを持ってきてくれた。川で顔と手足を洗い疲れた体にむち打ち腰を上げる。ここから一時間、何もなくてとても急な道を登ったり降りたりしてまさに苦行である。口から心臓が飛び出しそうになり、足があがらない。林さんはすたすた登って行くが追いつけない。戻ることが出来ないのでひたすら登る。イ氏も疲れている。あとどのくらいと聞いてももう少しというだけである。ついに動けなくなり、水を飲んで少し休み、また出発。気力で歩いていると林さんがそこだと言って道ではない岩の間を降りて行く。すると下の絶壁の所にあの神仙庵磨崖仏が見える。近づくと足が震えてくる。ここは高所恐怖症にはきつい。何とか震えながら写真を撮る。林さんに記念写真を撮ってもらうが顔が引きつっている。イ氏はトイレに行きたいので本道を通って先に七仏庵石仏へ行った。林さんが神仙庵磨崖仏の先端の崖っぴちの所にいてこっちへ来いという。ここを通らなければ七仏庵石仏に行けないと

いう。恐怖でアブラ汗が出る。林さんが迎えにきて、手をつないで何とか反対側に回り込む。とても急な道を両手を使って降りる。七仏庵石仏は 50 坪ほどの平らな場所にある。高齢の尼さんが一人でこの庵を守っている。生活物資はボランティアの人が麓から運ぶ。イ氏と再会してコーヒーを飲み、尼さんから冷たい梨とトマトをもらう。イ氏と林さんは尼さんが出したゴミの袋を持って降りる。下りは楽だと思っていたが膝ががくがくでとても辛い。カメラが重く肩も痛い。あとどのくらいと何回も聞きながら降りる。やっと平地についたので車はどこに聞いたらもっと先にいるという。下を向いてひたすら歩く。待ち合わせの場所に着いたが車がない。道路が工事中で車が入って来れないとのこと。さらに歩くと妻が乗った車があった。へろへろで乗り込むと次は南山里 3 層石塔へ行くという。林さんのあとについてももうろうとしながら写真を撮る。その後書出池、菩提寺址如来像、塔谷磨崖彫像群を見て死にそうになる。最後力を振り絞って市内の石氷庫、天文台、大稜苑を見るがここは全部繋がっているので歩かなくてはならない。かなりの距離がある。林さんの説明が長く気を失いそうになる。夕食はこの近くの韓定食の店に行く。とても古い民家を改築した建物でとても雰囲気があるが疲れてそれどころではない。食欲はほとんど無い。今までに疲れて食欲が無くなったことはほとんど無い。ホテルへ戻り死ぬ。後で聞いた話だが、朝運転手さんが妻のホテルにキムパブを届けてくれたそうだ。妻は 11 時頃一人で歩いて仏国寺を見て、ホテルに戻りキムパブを食べ、その後運転手さんが迎えにきたらしい。

5月4日

5時半起床、6時50分出発して隣の仏国寺へ。一番で入場して写真を撮りまくる。その後仏国寺前の食堂でクッパを食べるが食欲がない。一口もらう。骨窟庵は坂を上らなくてはならないので辛い。気力で登る。感恩寺址 3 層石塔はものすごい人である。一つは修復中で並んだ塔が見られない。海に出て文武大王陵を遠くから見る。海風が気持ちいい。何とか午前中の予定を完了する。昼食は食欲がないので韓国風うどんを食べる。おばさんの手打ちである。完食したら少し元気になる。鎮痛剤が効いて頭痛もなくなる。午後のプログラムも順調にこなす。夕食は焼き肉をリクエストする。調子が戻る。始めて韓国で焼き肉を食べる。骨付きカルビは美味しい。たれに付けた骨付きカルビも美味しい。ユッケを頼んだら日本の 4 人前位が出てくる。梨が沢山ついてきて絶品である。みんなで唐辛子をかじる。死にそうになる。もりもり食べて元気になる。林さ

んもすごく食べる。イ氏はラストスパートがすごい。ハイエナみたいで気持ち
がよい。最後はソーメンみたいな麺でしめる。コーヒーを飲んで、みんなにお
礼を言う。特に林さんには感謝する。彼女の旦那は考古学の研究者で彼女自身
も南山で仏像を発見している。南山の麓に住んでいて、しょっちゅう南山に登
っていると言う。日本が好きで特にジブリ美術館が最高だそうだ。ホテルで林
さんにさよならする。夜雨が降ってきた。

5月5日

5時半起床、雨は上がっていてとても涼しい。7時出発龍門寺へ行く。一時
間半ほどで駐車場に着き、前にある食堂でうどんにすいとんが入ったものとチ
ヂミを食べてお寺へ行く。とても大きいお寺で尼寺である。ここの見所は石仏
と四天王の石板である。素晴らしい。とても綺麗に整備され、ロケーションも
よい名刹である。ここから釜山まで2時間のドライブだ。お土産物屋へ寄り、
空港へ行く。イ氏とさよならして成田へ。